

アップサイクルに チャレンジ



古^{ふる}くなったものや使^{つか}わなくなったものを、よいよいものに作りかえて価値^{かち}を高め^{たか}めることを、「アップサイクル」といいます。



着^きなくなった服^{ふく}や、使^あっていない布製品^{めいせいひん}から、「つくってみたいな」「あったらいいな」「プレゼントしよう」と思う作品^{さくひん}を作^{つく}ってみましょう。

○用意^{ようい}するもの

- ・材料^{ざいりょう}(着^きなくなった衣服^{いふく}・フланケット^{ふらんけっと}・手ぬぐい^{てぬぐい}…)
- ・裁縫道具^{さいほうどうぐ}(針^{はり}・糸^{いと}・チャコペン^{チャコペン}・はさみ^{はさみ}・ものさし^{ものさし}・巻き尺^{まきじやく}・ミシン…)

1 ボックスにカバー

手ぬぐい1本 切^きらない、ぬわ^ぬない、すぐできる！

- ① 大き^{おおき}さを決^きめて、折^おり曲^まげる。
- ② 取^とり付^つける(押^おしピン^{ピン}やはがせる両面テープ^{りょうめんテープ}などを使う)。



手ぬぐいは、端^{はし}のしまつがしてあるので、糸^{いと}がほつれにくいです。

そのまま使^べえて便利^{べんり}です。



たなやカラーボックスに、カバーをかけると、見^みた目^めがすっきりします。

中^{なか}のものにほこりがかかりにくくなります。

2 まくらカバー

フланケット 直線^{ちよくせん}2本めったら、まくらカバー！

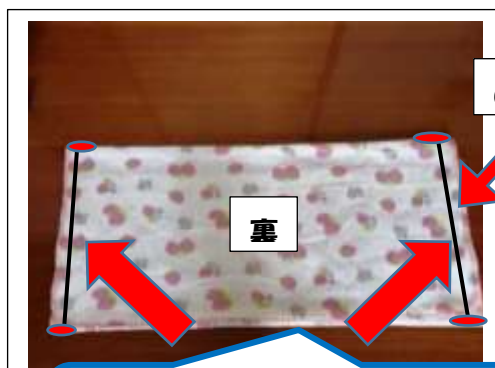
① 大きさを決める。



フланケットを中表にしておき、真ん中より少し上にまくらを置いて、まくらを包み、大きさを確認する。

まくらを包んだとき、重なり^{かさなり}の端が、まくらの端より少し上にくるようにする。

② しるしを付けて、めう。



4つの角の裏にしるしを付ける。

めいしろを2cmとって、4つのしるしを2つずつ線で結び、2本の線をめう。

③ 表に返して まくらを入れたら完成



バスタオルで夏用も作ってみましょう。

クッションカバーや座布団カバーにもチャレンジしてみましょう！

3 リバーシブルボックス

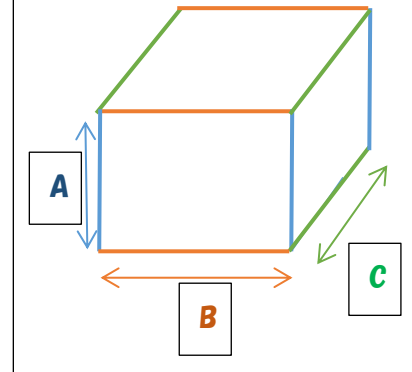
お気に入りの色や模様をいかして
裏・表 両面使えるリバーシブルボックスを作ってみよう！



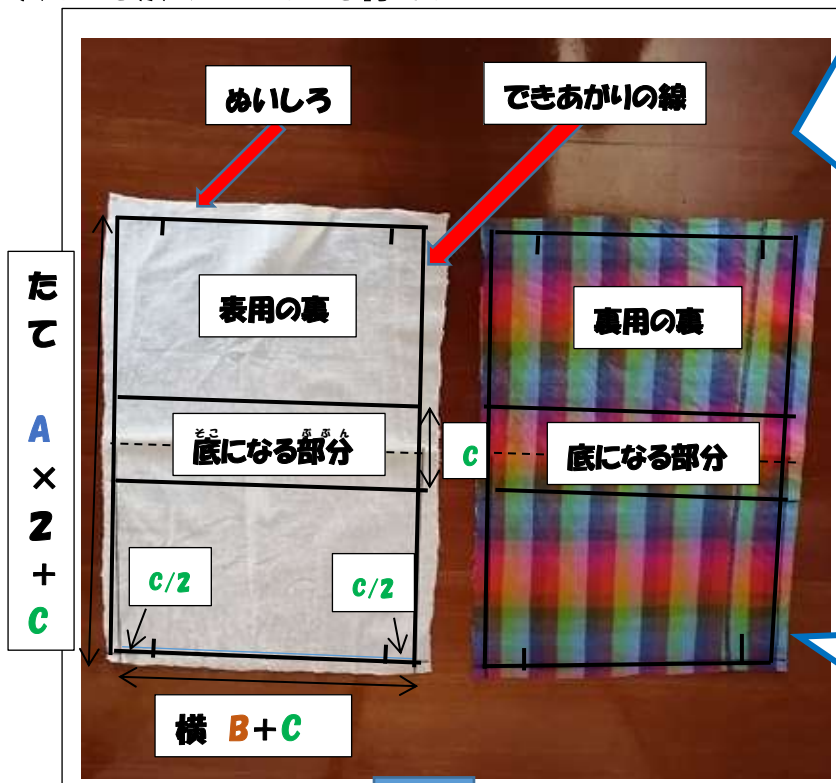
ここを使おう



作りたいボックスの大きさ



① 大きさを決めて しるしを付ける



作りたいボックスの大きさ

A cm

B cm

C cm

ポイント

- ・入りたいものが入る？
- ・ものの出し入れがしやすい？

用意する布の大きさ

たて $A \times 2 + C + 2 =$ cm

横 $B + C + 2 =$ cm

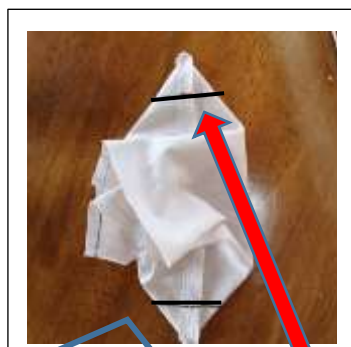
ゆとりをかんがえて

できあがりの線のまわに
めいしろを 1 cm 付けて布を
裁ち、しるしを付ける。

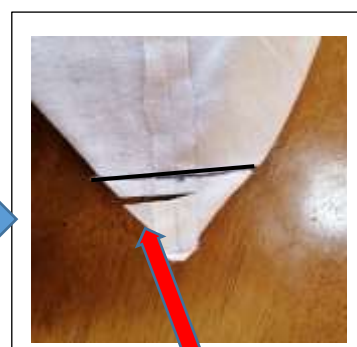
② 表用、裏用の布をそれぞれめう〔 表用、裏用の布に① ② ③同じ作業をする 〕



① 表用の布を中表に折し、両端の線を2本めう。



② めい終わったら、アイロンでめいしろを割る。
写真のように折りたたみ、しるしを線で結び、線を2本めう。

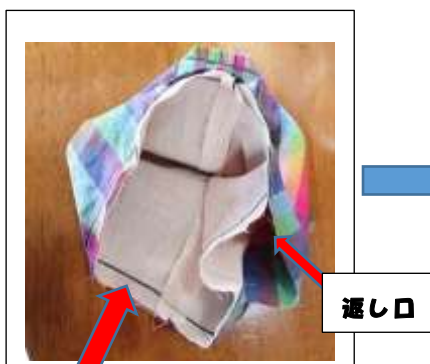


③ めい目から1cm^{のこ}残り、余分なところを切る。

③ 表用と裏用の布を合わせて縫う。



④ 表用と裏用の布を中表に重ねる。



⑤ 約10cmの返し口を残して2枚の布を合わせてしるしを1周めう。



⑥ 返し口から表に返し、端から5mmのところを1周めう。

- ・ 柔らかい布を使うと、袋のように張りのある布を使うと、箱のように仕上がります。
- ・ 刺繍をしたり、ボタンやビーズ、テープなどを付けたいして飾ると華やかに仕上がります。
- ・ いろいろ工夫をして、オリジナル作品を手作りしましょう。

